

Hi there!
はいさい!
你好!

ニュージャージー州出身。
2024年8月1日国際交流員
(CIR)として浦添市役所
国際交流課に配属。

国際交流員への
質問・ご意見を
受け付け中▶

ゆくいみそ〜れ〜!
ジェイソンと
ひと息カフェトーク
~JASON's Cafe Talk~

Episode
20
smells yummy talk
and journey talk

原文・和訳
ジェイソン チェン
JASON CHENG

「今」という「居場所」

最近、「居場所」とは“appreciate”（英語で人や物に感謝したり、価値を認め、その良さを味わうといった意味を持つ多義語）できる場所なのではないかと考えるようになりました。実は、国際交流員としての仕事が7月で一区切りを迎えます。将来を思い描く今、この言葉が一層響きます。

今年のゴールデンウィークは九州を巡り、福岡と大分の花々、熊本と宮崎の阿蘇高原、そして鹿児島島の桜島を訪れました。念願の熊本ラーメンを本場で味わい感動したものの、正直に言うと浦添にある熊本ラーメン店のほうが好みだと気づき、思わず“appreciate”してしまう発見もありました（笑）。行く先々で自然の豊かさや人の温かさに触れ、「日本って本当に素敵だな」と深く“appreciate”した旅でした。

沖縄に戻り、空港で沖縄ちゃんぽんを食べた瞬間、「帰ってきた」と嬉しく思いました。5言語を話せても、どの国でも自分の「居場所・アイデンティティ」を感じられないという国際人ならではの悩みを抱えていたけれど、「居場所」は場所ではなく、「今」という時間であるとうまく気づけた気がします。任期終了も近いので、今ある居場所に“appreciate”して、残りの時間を大切に過ごしながら、次の「居場所」を探していこうと思います。

A “Home” called “Now”

Recently, I've begun to think that an *ibasho* is a place where you can genuinely appreciate the fact that you are there. As my CIR work nears its end in July, this idea resonates with me deeply as I reevaluated my future.

For this year's Golden Week, I traveled around Kyushu, Fukuoka and Oita's flower fields, Kumamoto and Miyazaki's Aso highlands, and Kagoshima's majestic Sakurajima. I finally fulfilled my long-held wish of having authentic Kumamoto ramen in Kumamoto. I loved it, though I realized I actually prefer a certain Urasoe's Kumamoto-style ramen shop more (lol). That small discovery made me appreciate it even more. Everywhere I went, the bountiful nature and human warmth consistently made me “appreciate” the marvelousness of Japan.

When I returned to Okinawa and ate *Okinawa champon* at the airport, a warm sense of “I'm home” washed over me. Even though I speak 5 languages, I've long struggled, like many cosmopolitan people, to feel a firm sense of identity or belonging in any one country. However, I realized that *ibasho* was never a place, but rather a time, NOW, a realization that finally eased a lingering worry. As my term ends, I hope to appreciate my current *ibasho*, cherish the time left here, and continue seeking the next *ibasho* where I can feel that same sense of home.

Mr. Mayor column
市長
コラム
HAISAI! GUSUJYO

はいさい!
市長

浦添市長 松本 哲治
Tetsuji Matsumoto

「飛び立て世界へ！」

先日、TOFUプログラムの事後報告会に参加した。TOFUとは「Think of Okinawa's Future in the US」の略。沖縄の高校生・大学生たちがワシントンD.C.やニューヨークを訪れ、日米安全保障や沖縄の未来について英語で議論するという外務省主催の派遣プログラムで、浦添市からもこれまでに14人の若者たちが参加している。

報告会で、若者たちの言葉に途中から胸が熱くなってしまった。「基地の問題を改めて自分ごととして考えた」「世界に出て沖縄のことをもっと知りたくなった」。若者たちが持つ成長する力に圧倒された。

私自身も20代の頃にアメリカへ渡った一人だ。当時の沖縄と世界の距離はもっと大きかった気がする。普通の家庭に育った



凡庸な自分がアメリカの大学に行けるなんて、夢にも思っていなかった。でも行って初めてわかった。信じて頑張ればできるんだ、もっと大きな夢に挑んでいいんだ。そう実感した瞬間の感動は、今でも忘れられない。

沖縄には米軍基地があり、さまざまな課題も抱えている。しかし同時に、こんなにも多くのチャンスが転がっている島もある。それを嘆いて終わるか、飛び出すための跳躍台に変えるかは、全て君たち次第だ。逆境さえチャンスに変えて、夢に向かってジャンプしてほしい。

若い頃の自分も、あんなふうに見えたのだろうか。彼らのキラキラ輝く瞳に、少し嫉妬する私だった。



浦添市公式 Instagramにも投稿してるよ!

てだっ子STUDIO

てだこキッズファースト 宣言大使 てだ子

宮城在 笑顔で癒されま〜す

大平在 我が家のかわい〜い娘

勢理客在

外間 秋華 ちゃん (8か月)

津嘉山 万桜 ちゃん (4か月)

中村 晴太 ちゃん (6か月)

写真募集!

【募集対象】 市内在住の0~9歳のお子さん
【応募方法】 右記の二次元コードから①お子さんお名前②ふりがな③年齢または月齢④居住区⑤一言コメントと、画像データ(JPEG等)を添付し送信してください。
応募はこちら▶

●写真は、お子さんの顔全体が写っているもの(たて撮り推奨)
●これまでに掲載されていないお子さんを優先します。
●応募者多数の場合は、抽選の上、掲載します。掲載の可否については連絡いたしませんのでご了承ください。

簡単!健康!サッと作れる!
サッとごはん



30分 胃もたれせずに食べられるヘルシーレシピ
焼いちやうささみカツ 低脂質

- 材料(4人分)
- 鶏ささみ.....6本(320g)
 - 塩こしょう.....少々
 - パン粉.....大さじ2強
 - 粉チーズ.....小さじ1
 - アボカド・トマト(飾り用).....適量
- 作り方
- ①鶏ささみは筋を取り、5mm厚さのそぎ切りにする。
 - ②①のささみに塩こしょうを振り、パン粉を全体的にまぶす。
 - ③天板にクッキングシートを敷き、②を並べる。上から粉チーズを振りかける。
 - ④200℃に予熱しておいたオーブンで、15分焼いたら完成!

栄養成分表示(1人分あたり)
【ささみカツのみ】
エネルギー 88kcal
食塩相当量 0.3g

うめ〜しポイント
お好みでレモンをかけると、爽やかな風味でよりさっぱりとなり、塩こしょうを減らしても美味しくいただけます。オープンがない場合は、トースターやグリルで焼いてもOK!加熱時間は調理器具に合わせて調整してください。

レシピ提供:健康づくり課 管理栄養士 翁長由美子